

I. 目的

ハンドボール競技において、防御者は攻撃者の動作を予測することにより、防御しなくてはならないことが多々ある。防御者側が、攻撃動作を透過に予測して対応することができれば、パスインターセプトなど攻撃へと展開していくことが出来る。

そこで本研究は、ハンドボール競技の攻防場面に於いて、熟練者ほどのような点に着目しているかを明らかにするとともに、熟練者と未熟練者の着目点の相違を説明しようとした。

II. 研究方法

(1) 被検者：アンケート調査により、ハンドボール競技経験者・未経験者を5名ずつ選手した。以下、経験者は関東学生リーグ女子一部に在籍し競技歴5年以上の者、未経験者は全く競技歴のない者とした。

(2) 試合場面の撮影：関東学生リーグ女子一部の試合を、駒沢体育館のコートの後方上部にビデオカメラを設置して撮影した。その中からハーフコートでの遅攻のみを取り上げ編集し、攻防場面を何回も再現できるようにした。

(3) 実験の手順：被検者はアイカメラを装着し、TV画面より15m離れた画面の中央に目の高さになるように座らせた。各被検者には同一の攻防場面を10種類見せ、その視点のアイマールコートへ通しVTRに記録させた。また、

再確認のためVTRはモニターできるようにした。

(4) 分析手法：コートを図IのようにAへEの5つに区分し、ボールとアイマールの初動状況から0.5秒間隔で記録をとり分析・作図した。なお、分析はコート直前4回のパスからコートまでとした。

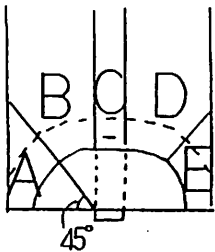
III. 結果と考察

図IIを示したように、未熟練者群のアイマールの動きはボールの初動とはほぼ同一であった。これは、未熟練者がボールに着目していることを示している。

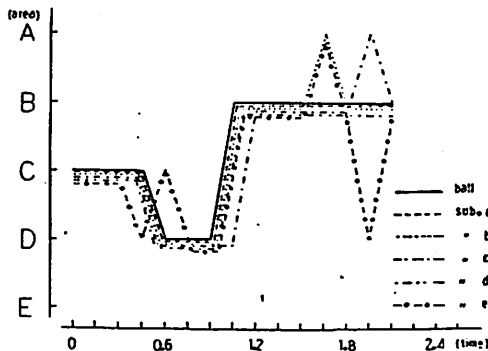
一方、図IIIのように熟練者群のアイマールの動きはボールの初動に対してちらばりが見られる。これは、個々により、その動きは違っても、ボールが初動する前にその初動点に着目したり、全く異なる地域にも着目していることを示すものである。

IV. 結論

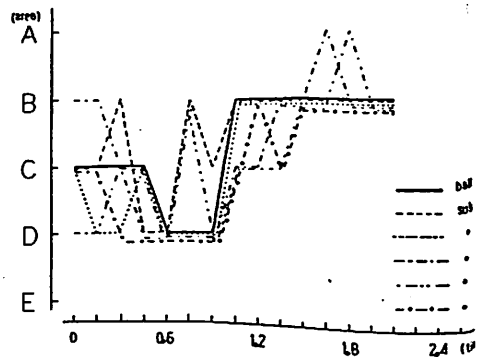
ハンドボールを経験している被検者（未熟練者）が、試合中の攻防場面を見るとほぼほとんどボールの展開に着目している。ところが、ハンドボール経験者（熟練者）はボールだけでなく、コート全体に着目していることがわかった。



図I 地域区分



図II. 未熟練者のボールとアイマールの初動



図III. 熟練者のボールとアイマールの初動

# ハンドボールゴールキーパーの対応動作における考察

20GP 1242 宮良 信浩

## 1. 研究目的

ハンドボール競技においてゴールキーパーはシューターにシュートボールに対して、いろいろな対応動作を行う。本研究ではゴールキーパーが、ジャンプシュートに対してどのような対応動作を行っているのかを説明しようと試みた。特にシューターが助走する時、及び様々なジャンプシュート動作（ノーマルタイミングシュート・クイックタイミングシュート・スロータイミングシュート）に対して、どのような対応動作を行っているかを明らかにしようとした。

## 2. 研究方法

(1). 被験者：ゴールキーパーの熟練者2名、及び未熟練者2名を選んだ。またシューターは競技歴6年以上の選手1名とした。

(2). 実験方法：被験者にはフォースプレート上に位置させシュートに対応させた。その際の被験者の地面反力はペンオシログラフに記録した。シューターはゴールポストより9mの地点から3種類のシュート（ノーマル・クイック・スロシュート）をランダムに行った。シューターの動作は、16mmVista Cameraで記録するともにタイムマーカーを用いてオシログラフに目盛をさるようにした。

## 3. 結果と考察

(1). ゴールキーパーはシューターがボールリリースを行う前にいろいろな対応動作を行っている。図-1・2は、フォースプレートの下方向に加わった力を時間の経過に伴い、体重1kg当りに換算して示したものである。図中における長方形はシューターの助走時の着地時点を示し、実線及び点線は左右足の加重状況を示している。

シューターの助走足に対してゴールキーパーは2つのタイプのいずれかの方法でリズムを合わせていることが分かった。1つはシューターの助走足が着地する時機と同機してキーパーが両足を加重させる方法で、2つには左右の足が交互にシューターの助走着地時機とタイミングを

合わせた方法であった。

(2). ゴールキーパーの熟練者は各種のシュート動作に対し、フォワードスイング開始時機とほぼ同時に動き出していたが、未熟練者の動き出し時機には大幅なばらつきが見られた。

## 4. まちめ

以上のことよりゴールキーパーはジャンプシュートに対して、熟練者・未熟練者にかかわらずシューターの助走りズムを察知していることが明らかになった。

またゴールキーパーはシューターがフォワードスイングを開始する時機とほぼ同時に動き出すことが分かった。

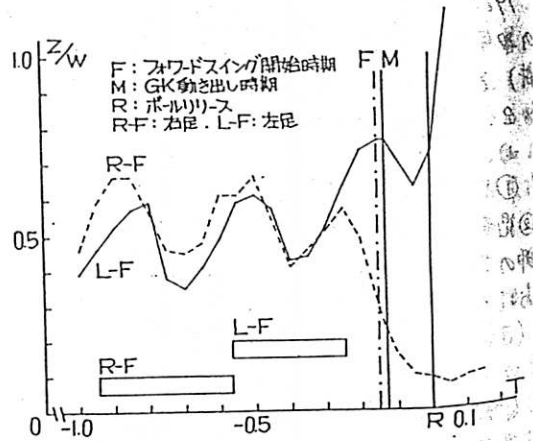


図-1 両足でのリズム

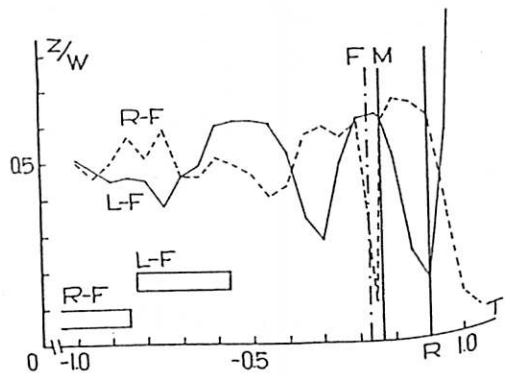


図-2 左右足でのリズム